

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 広島県立賀茂高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒739-0043
広島県東広島市西条西本町16-22

E-mail kamo-h@hiroshima-c.ed.jp

Website http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 名
 児童・生徒の年齢 歳～ 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 持続可能な発展を目指す地域課題発見と
解決に向けた提案 ）

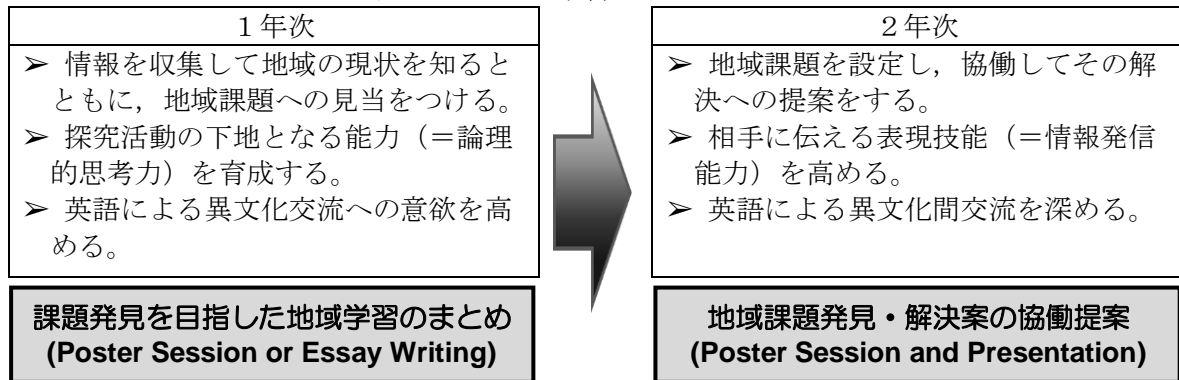
3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では平成 28 年度より「総合的な学習の時間」を Glocal Action Program (以下 GAP と略す) とし、地元地域の課題発見・解決を目指したカリキュラムを作成、実践している。

GAP においては各教科・科目で得られた知識をもとに、1 年次には地域課題発見への動機づけに始まり、地域課題への見当をつけるための情報のインプットを主な目標とし、2 年次につなげる。2 年次は講演、東広島フィールドワークと東京研修旅行での班別研修でインプット活動を継続し、第 3 学期のポスターセッション、プレゼンテーション大会における課題解決策の提案を最終ゴールとする。また、1 年次・2 年次共通で広島大学の留学生から話を聞いたり、姉妹校交流に加えて広島県教育委員会企画の短期海外留学(希望者のみ)や、海外からの高校生を受け入れての交流を行う中で異文化理解を深める(図 1)。

図 1 GAP の学習活動のつながり



さらに、GAP の目標を次の 3 点とした。

- ① 地域の諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身につけるとともに、異文化間活動に対応できるコミュニケーション能力を養う。
- ② 体験的な学習活動を通じて習得した知識や技能を活用し、問題解決に向けて協働して主体的に行動する態度を養う。
- ③ 社会に関心を持ち、グローバル社会と地域との関連性を理解し、自分の生き方と関わらせて考え、自分の言葉で発信できる能力を養う。

その上で、各学年における単元の設定と年間指導計画上記の目標を達成するため、各単元を次のように設定した(図 2-1, 2)。

図 2-1 第 1 学年 単元計画 (1 単位)

<p>単元Ⅰ 東広島を知る 外部講師の講演を聴いたり、個人やグループで調べ学習を進めたりしながら、私たちの郷土である東広島についてより深く知る。</p> <p>単元Ⅱ 学問領域からのアプローチ 新書の講読を通して、社会の様々な事象を自分の課題として考える。</p> <p>単元Ⅲ 世界との繋がりを知る 広島大学の留学生や姉妹校との交流を通して、自分と世界との繋がりを考える。</p> <p>単元Ⅳ 東広島を考える Ⅰ～Ⅲで学習した知識を活用し、地域課題を「安心な暮らしづくり」、「あらゆる分野での人づくり」、「新たな経済づくり」、「豊かな地域づくり」の 4 つの領域に分かれ、考えていく。</p>
--

図2-2 第2学年 単元計画（2単位）

単元V 東広島をリサーチする
1年次で得た知識をベースに、改めて外部講師（主に東広島地域に携わっている社会人等）の講演を聴いたり、個人やグループで調べ学習を進めたりしながら、東広島地域の抱える課題について探る。
単元VI 東広島をデザインする
グループ学習を基本とし、東広島フィールドワークや研修旅行での学習・体験を通して、東広島地域の課題を自らのこととして深く考える。
単元VII 東広島にプロポーズする
I・IIで学習・体験した内容を基に、東広島地域の抱える課題についての提案・解決等のプレゼンテーションを行う。

上記の単元をもとに年間指導計画を策定した（図3-1，2）。

図3-1 第1学年 GAP 年間指導計画

単元	時間数	学習活動
	2	GAP ガイダンス
I	2	社会人・職業人講話（東広島市役所） 「東広島市の現状と課題」
	1	東広島市に関する情報の収集
	1	各地域における情報の共有
	II	2
I	2	社会人・職業人講話（地元企業） 「サタケ(株)の海外進出と持続可能な農業の実現」
III	2	JICA 中国出張講義
II	2	新書を読む
I	2	社会人・職業人講話（地元企業） 「地方から海外へ」
III	3	姉妹校交流
III	2	IDEC（広島大学留学生）との交流
II	1	新書を読む
I	2	社会人・職業人講話（地域医療） 「地域医療の現状と展望」
I	2	社会人・職業人講話（地域の伝統） 「伝統工芸の伝承」
IV	4	地域課題への4領域からのアプローチ
III	2	英語レシテーション大会
IV	2	2年生プレゼンテーション大会
IV	1	地域課題について小論文
IV	1	1年次のまとめ

図3-2 第2学年 GAP 年間指導計画

単元	時間数	学習活動
	2	GAP ガイダンス
I	3	社会人・職業人講話（東広島市役所） 「東広島市の現状と課題」
I	2	社会人・職業人講話（地元企業） 「サタケ(株)の海外進出と持続可能な農業の実現」
V VI	16	東広島フィールドワーク

I	2	社会人・職業人講話（地元企業） 「地方から海外へ」
V VI	16	東京研修旅行での班別研修
I	2	社会人・職業人講話（地域医療） 「地域医療の現状と展望」
I	2	社会人・職業人講話（地域の伝統） 「伝統工芸の伝承」
VI VII	12	ポスターセッション （兼プレゼンテーション大会予選）
VII	6	プレゼンテーション大会
VII	2	GAP のまとめ

GAP の評価方法であるが、GAP では生徒の質的な高まりを評価することを重視し、ICE モデルに基づく評価ルーブリックを策定することとした（表 1）。GAP の目標が「持続可能な発展に貢献する人材を育成する」ことであることから、評価の観点に ESD において求められる力との関連を持たせた。

表 1 GAP の評価ルーブリック

	Idea	Connections	Extensions
批判的思考力	様々な事実と意見を区別して理解し、整理して述べることができる。	様々な事実や意見を自らの課題として捉え、公平に判断しながら課題の本質を考えることができる。	様々な事実や意見を公平な判断に基づいてその本質をとらえ、建設的、協動的、代替的に思考・判断しながら課題解決に向けた方策を提案することができる。
つながり	様々な事実を整理し、地域と世界のつながりを認識することができる。	様々な事実から地域と世界のつながりを対照的に評価し、共通の課題を見出すことができる。	様々な事実から地域と世界のつながりを評価し、その価値を見出すとともに、それらに自らを関わらせながら課題解決に向けた方策を提案することができる。
多面的・総合的な思考	地域課題を様々な角度・視点から捉えることができる。	地域課題を世界とのつながりの中で様々な角度・視点から捉えることができる。	人・社会・自然の相互的な関わりや構成を多面的・総合的にまとめて、課題解決に向けた方策を提案することができる。
協働・コミュニケーション	他者と協力して学習活動を行いながら、課題発見・解決に取り組むことができる。	協働活動において自分の役割を認識し、他者の考えや行動に共感し、それらを尊重しながら課題発見・解決に取り組むことができる。	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感しながら他者と協働して課題発見・解決に取り組み、課題解決に向けた方策を提案する中で自分の意見や考えの正当性と有意性を主張することができる。
未来予測	地域や世界の未来像を予想・予測することができる。	過去と現在の状況から、将来、地域や世界に生じるであろう課題を予想・予測することができる。	過去と現在の実実を踏まえ、将来あるべき未来像を予想・予測し、よりよい未来の創造に向けて自分がどのように関わるのかを提案することができる。

最後に、平成 28 年度 GAP の成果と課題について述べる。

GAP を終える第 2 学年に対し、年度末にアンケートを実施した。アンケートは 4 段階方式とし、A・B 評価を肯定的評価とする。結果は次の通りである。質問項目は以下の通りである（図 5）。

質問 1：あなたのグループでは、自分たちで課題を設定し、その解決法について考えることができましたか？

質問 2：ポスターセッションやプレゼンテーション大会について、しっかり自分の考えを伝え

ることができましたか？

- 質問 3：あなたは GAP での活動を通して、東広島の現状と課題について知識を広げることができましたか。
- 質問 4：あなたは GAP での活動を通して、東広島と世界のつながりを感じ、視野を広げることができましたか。
- 質問 5：あなたは GAP でのグループ活動で他の人と協力して取り組むことができましたか。
- 質問 6：あなたは GAP での活動を通して、自分の将来の進路について考えることができましたか。
- 質問 7：姉妹校交流などを通して、異文化交流を深めることはできましたか。
- 質問 8：「東広島市の現状と課題」の講演は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 9：「サタケの海外進出と持続可能な農業の実現」の講演は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 10：「地方から海外へ」の講演は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 11：「地域医療の現状と展望」(の講演は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 12：「伝統工芸の継承」の講演は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 13：夏休みの「東広島フィールドワーク」は、あなたが地域課題を考える上で役に立ちましたか。
- 質問 14：東京研修旅行での「班別研修」は、東広島と首都東京にある共通の課題について考えたり、東広島と首都東京、あるいは世界とのつながりについて考えるのに役に立ちましたか。

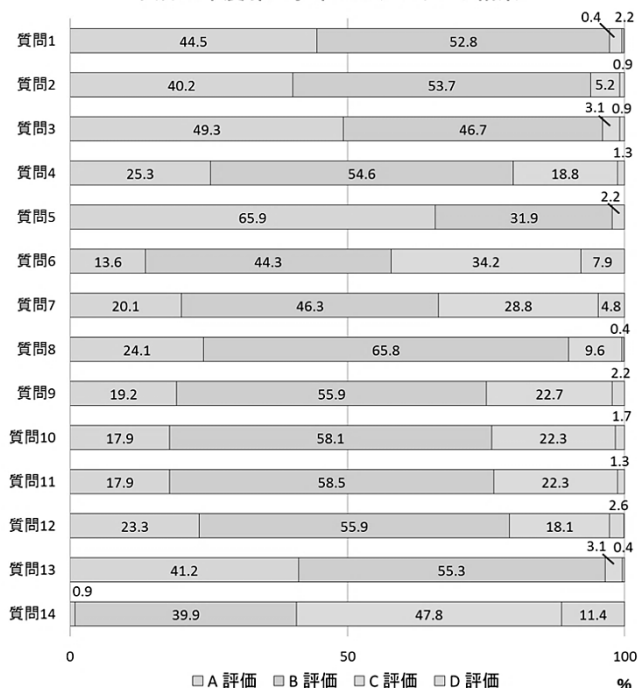
ほとんどの質問について肯定的評価 (B 評価以上) が 9 割を超えており、GAP の目的①「地域の諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身につけるとともに、異文化間活動に対応できるコミュニケーション能力を養う。」と②「体験的な学習活動を通じて習得した知識や技能を活用し、問題解決に向けて協働して主体的に行動する態度を養う。」については目標を達成したと言える。

一方で質問 9～12 (講演について) は肯定的評価が 70% 台にとどまっている。したがって、講演を聴く前の指導において生徒のレディネス (なぜ講演を聴くのか、どういう視点で聴くのか) を高めておく必要がある。

また、質問 7 と 14 では肯定的評価がそれぞれ 66.4% と 40.8% と低い。これは年間指導計画にあるように、十分な異文化交流が持てなかったこと、また東京研修旅行班別研修先と生徒の目標のミスマッチングに原因があると思われる。平成 28 年度広島県教育委員会企画の海外短期留学への参加人数は第 1 学年と第 2 学年を合わせて 12 名、姉妹校への研修参加者は 17 名であり、多くの生徒が異文化に直接肌で触れて体験することの難しさを感じる。

また、質問 6 は肯定的評価が 57.9% であった。生徒全員が地元地域課題と自分の高校卒業後の進路を直接的に結び付けることは難しいであろうが、社会の諸課題を自らの課題として考えることはこれからの「学び」に求められる能力であり、生徒の学びを能動的にするための教師の働きかけ (ファシリテーション) に工夫が求められる。

図 5 平成 29 年度 第 2 学年 GAP アンケート結果



本年度「総合的な学習の時間」のカリキュラムを根本的に見直し、実践した。年度末生徒アンケートの自由記述に、「GAPの活動を通して、私たちが住む東広島市のことをよく知ることができてよかった。また、フィールドワークや研修旅行で、実際に働く人にインタビューできたのはよい経験だった。もっと調べたら新たな課題が見つかると思うので、調べていきたい。」とあった。これはGAPが生徒の思考力・判断力の育成だけでなく、学びへ向かう力の涵養にもよい効果をもたらしていると言える。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ① 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）